

## ① ブラックイーグル

## 世界一美しい飛行、ジンバブエに

湖国の野生動物の生態を  
1年間かけて紹介してきた  
「野生のいぶき」。2年目は、  
観察フィールドをアフリカ  
に移します。須藤さんが10  
年以上かけて取材した写真  
とエッセーを12回に分けて  
お届けします。



動物写真家 須藤一成

アフリカの野生動物を撮影するきっかけとなつたのは、ブラックイーグルだ。子どもの頃にテレビで見たこのワシに魅了され、いつかは見たいと思いつづけていた。ある時、友人が「たまたま訪れたジンバブエでブラックイーグルを見たよ」と連絡をくれたので、すすんでいた想いに火がついた。「飛行する姿が世界で最も美しい」と称赞されたワシを、とにかく一度見てみたいとの思いから、すぐさまその地へ行く決心をした。

2週間の日程でジンバブエに向かった。乗り継ぎ地の香港で旅客機事故が起きた。彼らの行動をじっくりと観察するなど



マトボ国立公園の岩山をバックに飛行する

8月は乾期であり、毎日が晴天であることも幸いした。マトボ国立公園は標高1,200mほどの高原にあり、比較的なだらかな岩山がそびえている。想像していたよりも樹木が多いが、日本のような鬱蒼とした森ではなく、明るいまばらな林といつとんだ。ブラックイーグルは日本のかつて生息しているはず。出会うことは難しいかもしない…と思いつつ車で出発して間もなく、遠くの空に小さく点のように見える猛禽を見発見した。旋回しながら徐々にこちらに近づいて来る。その猛禽がブラックイーグルであることをはつきりとこの目で確認した。憧れていたワシとの出会いは予想を超える美しさだった。その姿は子育ての美しさだつた。

マトボは、子育ての真っ最中。巣には雌親と一羽の雛がいて、雄親が獲物を持ち帰るのを待っていた。

今回の探査で、ブラックイーグルが撮影できる自信と下地ができる。子育てのシーンを撮影でき、もう巣がない。翌年繁殖期が始まる4月に再びマトボを訪れ、撮影を開始した。1年に1ヶ月ずつ、時期を変えて数年かけて生態を記録し、DVD「ブラックイーグルとして上梓することができた。ブラックイーグルを巣端に、僕の「アフリカ撮影の旅」が始まった。



白い綿毛に包まれた雛と雌親

◀ ブラックイーグルが暮らす岩山には、かつて狩猟採集民族のサン人が暮らした洞窟があちらこちらにある。洞窟内にはこのような岩絵が残されている



すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に日本やアフリカで野生動物の撮影に取り組む。  
米原市在住。写真集「Golden Eagle イヌワシ」(平凡社)、DVD「ブラックイーグル」「ツキノワグマ」など。

